

車掌2人で「区間こだま」は大丈夫か？

その2

車掌の労働強化とお客様へのサービス低下につながる！

夜間の「区間こだま」では、泥酔客による車内トラブルや嘔吐物の処理も発生します。その他の様々なトラブルが後部車掌の担当号車で発生した場合には、後部車掌は列車監視のために運転台に戻らなければなりません。そうなれば車掌長（列車長）が対応を引き継ぐことになり、**車掌長の負担（労働密度）は果てしなく高まります。**

また、案内や苦情対応などが重複した場合でも、対応を中断して列車監視に戻らなければなりませんので、更なる苦情に発展するかもしれません。

2人乗務によりお客様に親切、丁寧な案内ができなくなることが懸念されます。

こだま号は車掌3人乗務にすべきだ！

JR東海労との業務委員会で会社は、区間こだまについて、「通勤で慣れている旅客やJR社員も多数乗車している。また周囲のお客様のご協力も頂き・・・」などと車内トラブル時の対応について回答しています。

しかし、そんな不確実な曖昧な対応策では車内秩序は保たれないし、安全は確保できるのでしょうか？

安全最優先、サービス向上のために「こだま号」はパーサー乗務ではなく、現行と同じく車掌3人乗務にすべきです。

私たちはすべての乗務員・お客様のためにも
新幹線車内業務の見直し」に反対します。

JR東海労・新幹線車内業務の見直し反対プロジェクトは、情報『Crew Voice』で、乗務員の声を主張していきます。新幹線地本のメールに多くの意見と感想をお願いします。jrcushinkansen@yahoo.co.jp